島田療育センターニュース

第294号
2022年4月1日

2022年度を迎えて

３月７日（月）にこれを書いています。ロシアがウクライナに軍事的に侵攻し、北朝鮮はミサイルを発射しといった遠くでの喧噪の中です。やれやれといった中で我々は何をすればいいのか一瞬見失いそうですが、昨日と同じように明日も自分の持ち場で仕事をするしかありません。大震災の時、若者は東北に行きたいと焦った顔で言いました。私は行ってもいいが、寝袋、食糧、足は確保していくように言いました。それから自分探しにだけは行くなとも言いました。人間、考える前に行動するしかないこともありますが、そうしないのも人間の属性です。国家と国家のせめぎ合いが戦争だとしたら、その解決はその関係の中にしかありません。戦争を倫理（善悪）で裁断したり（悪いに決まっている）、センチメンタリズムだけで解釈したりは危ないのではないかという「安全な」日本でお気楽に考えていることに罪悪感をもたないこと。「欲しがりません、勝つまでは」はいつでも忍び寄ってくること。震災のときもコロナ禍の今も。

院長　久保田 雅也

笑って、泣いて、怒ってという無名の日常を生きることを奪われた側に立つこと。避難した人にも、残った人にも静かな夜が訪れますように。

2022年度の方針　療育を見つめ直し組織力の強化、経営の安定化を図る

1. 感染対策を行いつつ、各事業の増収計画を見直し、収入に繋げる
2. 「接遇アップハンドブック」を使用しての接遇強化に努める
3. 在宅事業の見直しの為に地域連携を強化する
4. 変化する社会・医療・福祉情勢に組織で対応できる自立した人材育成を行う
5. 新センター建築計画の基本設計を行う

2022年度

主な行事予定・就学状況

4月	新職員オリエンテーション
5月	第61回創立記念式典 第6病棟　大遠足（1班）
6月	第3病棟　大遠足（西棟） センター防災訓練 島田療育センター集談会
8月	成人を祝う会
9月	わいわい祭り 第7病棟　大遠足（1班）
10月	第1病棟　大遠足（1班） 第2病棟　大遠足（2班） 第3病棟　大遠足（東棟） 第5病棟　大遠足（1班） 第6病棟　大遠足（2班） 第7病棟　大遠足（2班）
11月	第1病棟　大遠足（2班） 第2病棟　大遠足（2班） 第5病棟　大遠足（2班） 還暦・古稀のお祝い 合同防災訓練 島田療育センター集談会
12月	クリスマス会　（入所・通所）
1月	デイケアセンター成人・新年を祝う会
3月	デイケアセンター卒園式

その他イベント予定

各種配信イベント・音楽コンサート、ぱらあーと（多摩市みんなの美術作品展）、各種講演会（セブンクローバー）…など

東京都立多摩桜の丘学園在籍数（４月１日現在）

	本校	分教室	総数
小学部	０ 名	０ 名	７ 名
中学部	０ 名	２ 名	
高等部	１ 名	４ 名	

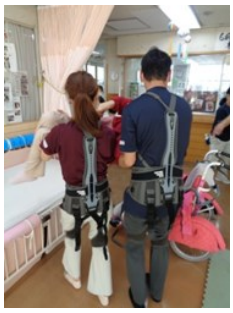
これいいね！

病棟で活躍する道具たち

アシストスーツの活用

第６病棟では１ヶ月間、アシストスーツの試着を行ないました。最初は「着るのが難しそう」という声も聞かれましたが、実際に着用すると背筋が伸びて正しい姿勢でケアを行なうことができるので、利用者様にとっても安心です。また、場面によってアシストスーツを着用する等、職員それぞれで工夫して使用する事ができるようになりました。腰痛や腰に不安を抱えている職員が多くいる中、アシストスーツが活用され、身体への負担の軽減に繋がれば良いと思います。

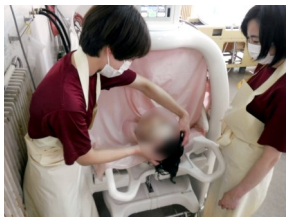
（療育主任　美保　弘輔）



念願のミスト浴

念願のミスト浴、酒井医療の「PAO」が第２病棟にやってきました。ドームの中に霧状のミストが勢いよく出てきます。ミスト浴に入っている時には長い髪のケア（トリートメント等）をしたり、頭皮のマッサージを楽しむ事ができます。どの利用者様もとても気持ち良さそうにミスト浴を楽しんでいます。湯船での入浴も良かったのですが、ミスト浴ではより安全安楽に全身を温めることが可能です。第２病棟では毎月「入浴週間」を設定して季節感を大切に入浴を楽しんでいます。ミスト浴の導入でますます入浴時間が充実しそうです。

（療育主任　下村　毅）



コスメテックスローランド株式会社様より

薬用ハンドジェルの寄贈をいただきました

社会福祉法人東京都共同募金会を通じて、コスメテックスローランド株式会社様より薬用ハンドジェル5,400個をいただきました。新型コロナウイルス感染症の流行が続く中で、日々の感染対策として利用するために職員や地域の様々な施設へ配布させていただきました。たくさんのご寄贈ありがとうございます。

（編集委員　岸水　美知恵）

2021年度療育部退職職員3名より

iPadの寄贈をいただきました

去る2月、2021年度に当センターを退職する療育部職員3名より、入所・通所利用者様の活動場面での利用を目的としたiPad7台の寄贈をいただきました。今回の寄贈品はそれぞれの病棟・デイケアセンターに1台ずつ配置されることになり、インターネットや写真の取り扱いなどを定めたルールも療育部・ピコピコルームが共同で作成し、2022年度から活用を進めていく予定です。また、3月には簡易的ではありますが、ご寄贈くださった3名と療育部・ピコピコルームの代表者3名の計6名で贈呈式も行いました。和やかな雰囲気の中、それぞれの想いや感謝を伝えたあと、療育部長に寄贈品が手渡されました。素敵なご寄贈品をありがとうございました。

（ピコピコルーム　神田　水太）

第19回

公開シンポジウム を開催しました

第19回島田療育センター公開シンポジウムが2月11日（金・祝）午後、オンライン形式で開催されました。テーマは「**小児期発症神経難病における生活支援の現状と課題～ほんとうのことを話したい～**」でした。コロナ禍で2回中止されたのを受けてのオンライン開催でしたが、以前の会場開催では100-200名だった参加者は、今回は全都道府県から500名がオンライン登録、357名が当日参加しました。会場準備の煩雑さと参加人数を考えると今後の開催もオンライン形式がよいかも知れません。

企画書に「このコロナ禍でモヤモヤとした分断や出口のなさを実感している時こそが、ある意味では様々なことを議論するチャンスだと考えます。」と書きました。講演者3人はいずれも自身の体験から現状を振り返り、未来につながる言葉を提示しました。

①唯一無二の自己身体と障害の社会モデルを踏まえた支援

東京大学先端科学技術研究センター准教授、小児科医熊谷晋一郎先生は、幼少期からの体験から自分という唯一無二の当事者と環境の関係を分析、自身の変えられる部分とそのニーズにより社会のデザインの変革を明らかにすること、「障害」は単一に固定化されたものではなく、医学モデルのimpairmentと社会モデルのdisabilityは異なること、後者をふまえた支援が必要なこと、身体と自己の物語に基づき、依存先を広く緩やかに増やすことを自立ということ等を述べました。

②「大事なものはたいていめんどうくさい」

東京都立小児総合医療センター在宅診療科部長冨田直先生は、近年の「医療的ケア児」を巡る状況と自身の経験を基に「選択を意識し、『出会い』をひきつぐ」という現在の課題と未来への展望を述べました。少子化問題とその小児医療への影響を小児医療が先細りする危機の岐路に立っているととらえ、「相対的」な医療的ケア児の対応の重要性の増加を指摘しました。このことを歴史的に振り返り、2021年医療的ケア児支援法施行までの過程と在宅医療サポートチーム、医療的ケア児コーディネーターの活動と課題を述べました。自身の患者さん、家族、多職種の専門家との出会いから多くを学び、「真のクライアントは児である」を肝に命じ、合理で語られがちな医学を軽やかに飛び越えていこうとしています。

③「啐啄同時」（そったくどうじ）

脊髄性筋萎縮症の娘さんをケアする大泉さんは病気を抱えた患者の親としてだけではなく、考える主体として、場の創成を周囲を巻き込む自然なやり方で遂行することを述べました。そのやり方は前例がなければ前例を皆で作ろうというものですが、正解のない眼の前の難題を、夏休みの自由研究に取り組む小学生のようなキラキラした眼で、あーでもないこーでもないとこなしていく軽やかな姿が目に浮かびます。「…ねばならない」や「…すべきだ」からどれくらい自由になれるか、なるためには何が必要か、「よってたかって」みていく体制はこうしてできるということがよくわかります。

以上の3人の講演は視聴者によるアンケート結果でも好評で4時間があっという間に終わりました。ただし充実した講演内容から眼が離せなかったが、次回からは（トイレ）休憩くらいはほしいという感想がありました。これは反省点です。オンラインなので休憩を設けなくともよいだろうと思っていましたが。　（院長　久保田　雅也）

2021年度 第2回

医療安全講習会 を開催しました

2021年度第２回医療安全講習会は各部署、オミクロン株の影響による人手不足で２月末日までという受講期間を２週間延ばしての開催となりました。「利用者様と介助者　お互いの安全を守るための車いすの使い方」というテーマで、理学療法科の諏訪さん、開沼さんのお二方にお話しいただきました。センターでは毎日目にする車椅子ですが、実際に触れる機会は少ない職種の方には参考に、いつも操作している方にとっては再確認の講習となったのではないでしょうか？

（医療安全委員　中野　智子）

主任以上対象研修

上司と部下のすれ違いをなくすコミュニケーション研修 を開催しました

2022年1月、主任以上を対象とした「上司と部下のすれ違いをなくすコミュニケーション」研修が行われました。コロナ禍の今、集合研修に代わる方法として、自席や部署内のパソコンを視聴するeラーニング形式で研修を行いました。本研修では、部下とのコミュニケーションが上手くいかない原因には部下に対する「無関心」が潜んでいると指摘し、積極的に相手を知ろうとして常識のすり合わせを行う事がコミュニケーションの第一歩であるとしています。またタイプ（個性）別にアプローチ方法の具体例が示されていて、わかりやすい内容でした。（学術研究・研修部　星野　抄織）

利用者様の居住スペース

季節の彩り

ワクワクの春をイメージしました。紙コップのお花に、色塗りや貼り付けのレイアウトを利用者様と一緒に作りました。

第16回

心理講演会を開催しました

２月 19 日（土）に、第 16 回心理講演会を初のオンライン開催で行いました。臨床心理科では、読み書きの困難さを抱えるお子さんについて、具体的な支援方法や合理的配慮についてご相談を受けることが少なくありません。そこで今回は、かわばた眼科視覚発達支援センター・センター長でビジョンセラピストの簗田明教先生に、「**読み書きにつまずきがある子どもたちに家庭や学校でできること～合理的配慮と支援～**」というテーマでご講演いただきました。

当日は保護者をはじめとして、教育関係、医療・福祉施設職員など 345 名がオンラインにてご参加くださいました。講義では、視機能や視覚認知について具体例や実際に使っている検査方法など、どのような点を観察したらよいのか、どのような困り感が出るのかを丁寧にお話いただきました。眼球の動かし方や色や光への過敏性など、知らなければ「なぜ、できないの？」となってしまうような事も、事例を含めてお話いただけたことで、困難さについて理解を深めることができました。また、具体的な教材や参考文献も多数ご紹介いただき、今後の支援への手がかりも沢山いただけました。

参加後のアンケートでは、保護者からは「話を聞いて、今までやってきた方法でよかったんだという安心感と、こういうやり方もあるのかと勉強になった」、支援者からは「具体的な支援方法を、困っている子ども達にすぐに使ってみようと思う」といったご感想をいただきました。子どもに関わる大人として、立場は違えど、どの子どももより良い環境の中で成長していって欲しい、という気持ちは共通であると思います。本講演が先生の言葉にもあったように、“できない子ではなく、やらない子にならないような支援”を考える一助となればうれしく思います。

はじめてのオンライン開催で、ご不便をおかけしてしまった点もあったかと思いますが、遠方の方にもご参加いただけたり、「オンラインは参加しやすかった」というご意見をいただけたりもしました。今回の皆様のご意見を参考に、これからも様々な形での講演会の開催を考えていきたいと思っております。

講師の先生、参加者の皆様、ご協力いただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

（臨床心理科　髙木　聡子）

おしらせコーナー

第61回創立記念式

2022年5月2日（月）に創立記念式が行われます。当センターは今年で創立61年を迎えます。

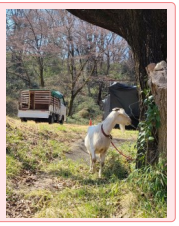
保護者・支援者向けサービス

ペアレントトレーニング、ティーチャートレーニングといった保護者や支援者向けのサービスを行っています。

詳細はこちら

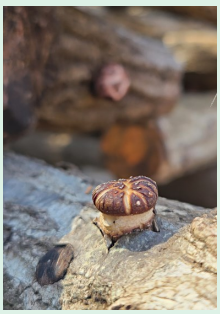
ヤギがやってきました

病棟・外来問わず大人気のヤギさんたちが今年もやってきました。夏に向けて伸びてくる草をもりもり食べてもらう予定です。



shot! ひとこと

3月に入りやっと寒さが緩んできたと思ったら、いきなり初夏か！というような気温の2022 年のホワイトデーです。裏山では木々が芽吹き、シナミサクラが開花し、小さなしいたけがポゴポゴと原木から顔をのぞかせていました。もうすぐ春本番です！



発行者　社会福祉法人 日本心身障害児協会　島田療育センター
〒206-0036　東京都多摩市中沢1-31-1
TEL　042（374）2071　（代表）
URL　https://www.shimada-ryoiku.or.jp/tama/
スマホの方はこちらから　島田療育センター　ブログ ぽっけ　フェイスブック